

姫路大学附属健康・教育実践研究センターの開設

研究センター長 郷間 英世

姫路大学大学院看護学研究科論究

第3号

2020年3月1日発行

姫路大学附属健康・教育実践研究センターの開設

研究センター長 郷間 英世

1. センターの開設と概要

大学の使命の一つとして、地域社会への貢献や支援があります。これは、研究機関である大学が、人々の求めている事柄について、研究成果を地域や社会へ還元することにより人々の生活の質（QOL）を向上させることです。このことは、社会的存在である大学にとって、これからますます重要な課題となってくると思われま

す。姫路大学は歴史も浅く看護学部と教育学部からなる小さな大学ですが、平成29年度には看護学部に大学院博士前期課程、平成31年には博士後期課程を開設し、成人高齢者看護学分野及び障害児・者支援学分野を設け、高度の研究機関としての新たな歩みが始まりました。そして令和元年に、この「姫路大学附属健康・教育実践研究センター」が設立され、11月に多数の来賓の方々や地域の老人クラブの方々の参加のもとに開所式が行われ、姫路市の清元秀泰市長に「震災復興と個別化医療」という演題の記念講演をいただきました。また、本学特任教授小林廣美氏による「体験・笑いヨガ」が行われ、地域の方々の参加による研究センターが船出いたしました。

センターの中の部屋は、30人程度が体を動かすことができ活動や講座を行うプログラム室、10人程度の話し合いができる相談室やミーティング室、ウオーターベッドやリラクゼーションチェアがあり重度の障害児のためのスヌーズレン室、くつろげる和室など、あわせて6つの部屋があります（写真参照）。



プログラム室での「笑いヨガ」とスヌーズレン室

本センターの特色のひとつは、小さなお子さんからシニアの方まで幅広い年齢の方々に対して、専門家が相談に応じたり支援プログラムの実践を行っていきこうというものです。

研究センターの組織は、子ども発達支援部門、地域生活支援部門、障害児・者支援部門、シニア支援部門の4つに分かれています。それぞれの役割を次ページに記載します。

***子ども発達支援部門**

子どもたちを取り巻く社会の状況，地域環境・教育環境は厳しさを増しています。子どもと家族に生じている課題に対して，相談や助言を行うとともに，親子遊びなどのプログラムを通して，地域における子育て支援や教育支援を行います。

***地域生活支援部門**

兵庫県看護協会と協同して「まちの保健室」を開設します。健康相談，子育て相談，介護相談に加えて，健康に役立つ情報提供や，様々な機器を用いた健康チェックを行います。学校の保健室のように地域の方々が気軽に相談できる場になるよう計画しています。

***障害児・者支援部門**

障害児・者の発達を支援し，社会参加を進めていくことは，現代的課題である共生社会の実現にとっても大切です。本人や家族の相談や支援プログラムを通して，障害のある人々や家族が住みやすい環境を作っていくことを目指します。

***シニア支援部門**

シニアの方々がいきいきと生活できる社会を作っていくことは私たちの使命です。地域に住む人々の相談助言を行ったり，笑いヨガなど地域の人々が参加できるプログラムを通して，支援の実践を行っていきます。

2. 地域に住む人々のセンターに対するアンケート結果

設立に先立ち，地域の人々の協力をいただいて，どのような希望があるのか調査を実施しました。

図1に，子ども園に通う幼児の保護者の希望を示しました。「発育や発達に関すること」や「食事や栄養に関すること」について知りたいという希望が多いという結果でした。その他，「発達障害について」，「兄弟げんかの対応」，「偏食」，「ゲームの時間について」，「子どもへの注意や干渉の仕方」，「同じ目的の人と繋がりたい」などの希望がみられました。

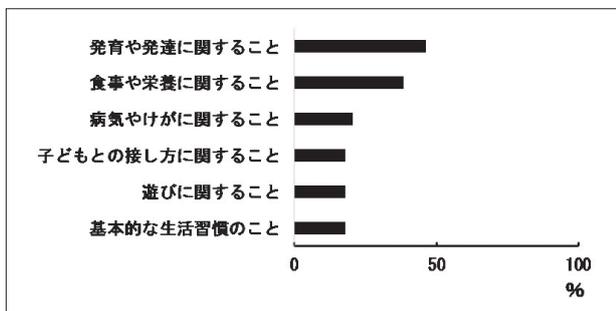


図1. 幼児の保護者の希望する講座や活動

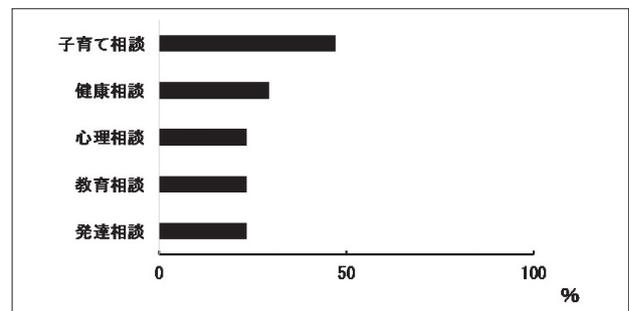


図2. 親子遊び参加児の保護者の希望する相談

図2，図3に，姫路大学で行っている「親子遊び」に参加している子どもの保護者に，希望する相談や講座について質問しました。相談したい内容は「子育て」についてが多く，講座は「子どものほめ方・叱り方」を希望した人が80%近くありました。また，参加している「親子遊び」については，100%の方が今後も参加を希望していました。

そのほかに、「遊ぶ場所の開放」, 「親子クッキング」, 「野菜作り」などの希望もみられました。

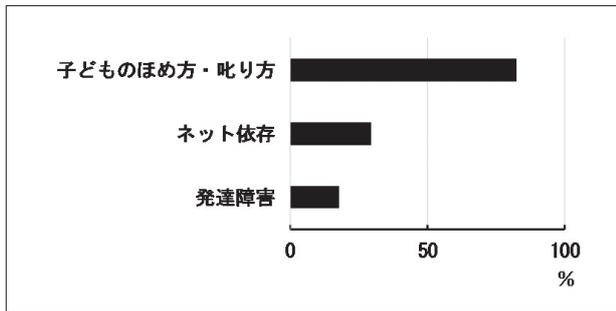


図3. 親子遊び参加児の保護者の希望する講座

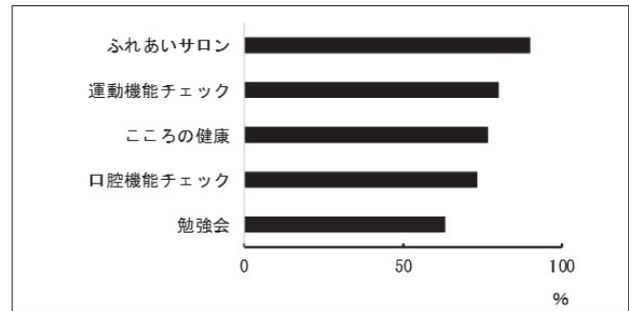


図4. シニア世代の希望するセンター活動

シニア世代の希望は、地域の老人クラブの方々にお願ひしました。結果を図4に示しましたが、「ふれあいサロン」, 「運動や口腔機能のチェック」, 「心の健康」などいずれも半数以上が希望していました。そのほかに「グループで勉強会をしたい」, 「学生さんと一緒に活動したい」, 「大学のプログラムに参加したい」, 「一般の人もバスの利用を希望する」などがみられました。

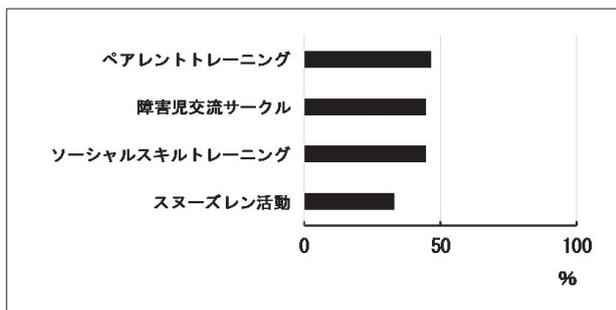


図5. 障害児の保護者の希望する活動

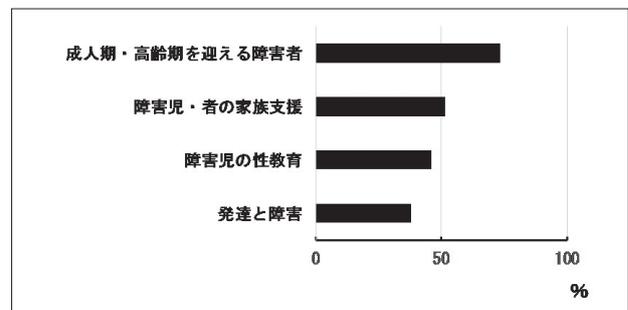


図6. 障害児の保護者の希望する講座・講演

姫路市の支援学校に通う障害児の保護者にアンケートの協力していただいた結果を図5, 図6に示しました。希望する講座や講演では、「成人期・高齢期を迎える障害児について」, 「障害児の家族支援」, 「障害児の性教育」が多い内容でした。希望する活動では「ペアレントトレーニング(PT)」, 「障害児交流サークル」, 「ソーシャルスキルトレーニング(SST)」が多く、本研究センターにも設置しているリラクゼーションのための「スヌーズレン活動」の希望もありました。

以上のように、地域の方々から様々な希望や要望を得ることができました。これらの内容について検討しながら、可能なものは今後のセンターのプログラムに生かしてしていきたいと考えています。

3. センターの課題と今後

研究センターは、看護学部と教育学部が特徴を生かしながら、学生の参加のもと、子どもから高齢者までの発達の支援や健康の維持促進、また慢性疾患患者や障害児・者のQOLの向上を目指した支援や研究を行うことを目的としています。

このため、1) 相談活動, 2) プログラムや講座等, 3) 地域の人々や行政等との共同研究, 4) 研究成果の社会への公開, などを行っていく予定です。

1) の相談活動では、子育て相談・教育相談・発達や障害の相談・保健相談・高齢者相談などを通し

て、地域における専門的機能を持つ機関としての役割を担っていきたいと考えています。

2) では、子どもからシニアまでの活動プログラムの実践や公開講座等による啓発活動を通して、地域の人々の生活を豊かにしていくことを目指します。

3) は、医療や教育機関との連携により、地域の人々の協力を得て、医療や福祉用具・教育関連プログラムなどの開発を行っていきたいと考えています。

4) 研究センターの成果は報告書としてまとめるとともに、姫路大学ブックレット（小冊子）の作成・出版、姫路大学健康教育研究会などの設立などを通して、広く社会へ発信していく計画です。

研究センターは開設後間もないため、大学ホームページに研究センターの紹介や内容のページを作成し、地域の人々に分かりやすいように周知し、地域の人々と歩んでいけるような研究センターにしたいと考えています。